

活動報告書

実施日	令和1年11月18日(月曜)
目的	「sanjo森のようちえん」の現状から学び、今後の自然保育へ提言
視察先・調査先	sanjo森のようちえん 新潟県三条市上野原
内容及び結果	対応者：原淳一 理事長 同行者：河原井拓也 県議会議員 添付資料参照 森の幼稚園が向かっていこうとする保育の在り方は、これから多くの人に受け入れられると感じるが、国から認可されていない現状でどれだけ今後延ばしていけるか、課題も多い。認可されるべく国の動きを加速させるためにも、地方ならではの支援の仕方を模索するべきではないかと考える。
備考	令和1年9月議会の一般質問

一口に自然保育と言っても様々な形態があり、子供の育ちには自然になるべく触れることが良いとされている。一般の認可幼稚園・保育園でもそのような活動が多く含まれているが、これをより積極的な形で実行しようとする「森のようちえん」の課題は多い。

認可外幼稚園として行政からの支援を受けられないこと。結果として親が高めの保育料を負担することになり、短い保育時間でお弁当まで持たせる場合もある。また人手不足の現場を支えるためにボランティアとして園を支える人も多い。そこまでしても自然保育を受けさせたいという親が集まる。保育の無償化が実現する今、自然保育を先進的に実行するこうした団体へもなんらかの支援が必要なのではないか。

「秋葉森のようちえん」を運営された原淳一理事長は、秋葉ではもう対応しきれない数のお子さん達を更に受け入れるべく、三条に新しい基地を作るのだという。「こうした森のようちえんの取り組みを通して多くの子育て世代に新潟の魅力が力強く発信できる。森のようちえんのために移住してきた人もいる。たとえ数としては少なくとも、移住者にはインパクトのある魅力が自然保育だといえるのではないか。」と力説してくれた。

原氏はもともと造園業を営まれているが、現在新潟市内のいくつかの幼稚園や保育園の園庭を自然保育しやすい環境に作り変えてこられた。そうした関係から更に多くの保育関係者から理解と共感を得ているのだと思われる。多くの「森のようちえん」運営者がなかなか一般市民の理解を得られないと感じているその壁を、取り崩していくためのヒントがあるように思う。

課題も多いが、何とか理解する人を増やして多くの子供たちが自然保育にさんかできることを期待してやまない。



報告者：櫻庭節子